

「モーセも成長し続けた」

出エジプト記 3章1～14節

1

それから、ヨセフもその兄弟たちも、またその時代の人々もみな死んだ。イスラエルの子らは多くの子を生んで、群れ広がり、増えて非常に強くなった。こうしてその地は彼らで満ちた。やがて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民はわれわれよりも多く、また強い。さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くことがないように。」そこで、彼らを重い労役で苦しめようと、彼らの上に役務の監督を任命した。また、ファラオのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。出エジプト1:6-11
ファラオは自分のすべての民に次のように命じた。「生まれた男の子はみな、ナイル川に投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかなければならない。」
出エジプト1:22

2

モーセの人生

- イスラエルの歴史で最も偉大な人物？
- モーセ！（「十戒」、モーセ五書）
- モーセの人生は3つに分けられる、王宮での生活、荒野（メディア）での生活、イスラエルの指導者としての生活（40年ずつ）
- 自分でやれると思った時代、自分にはやれないと思った時代、神といっしょにやった時代
- プライドが高かった時、少しへりくだった時、もっとへりくだった時

3

モーセの人生

- 奴隷として生まれたモーセは死ぬ運命にあった
- エジプトの王女がナイル川から「すくい上げた」＝モーセの名前の意味
- 実の母親が、乳母（うば）として王女に雇われた
- 後にエジプトをさばくことになるモーセにファラオはエジプトの最高の教育を与えて育てた。
- 神の恵みのわざ、余裕とユーモア

4

モーセの挫折

- 奴隷の子からエジプトの王子に
- 同胞への同情心、正義感、責任感で行動
- 秘密作戦「砂隠し」は、ばれてしまう。
- 同胞には理解されず、ファラオから命を狙われる。
- ミディアンに逃れ、家庭を持ち、羊飼いで生計を立てた
- 自信とプライド満々からすこしへりくだった

5

神との出会い

- 自分を知る
- 自分を知る神を知る
- 燃えるが燃えない柴のでの出会い
- どうなっている？
- 創世記と出エジプト記はつながっている
- 「有難い」ものすべてを創られた神に「ありがとう」と言える関係
- 燃える柴は神の「しるし」奇跡
- 私たちの一人一人の命、人生も奇跡！

6

神との出会い

- 罪とは神から迷子になること、人生の的をはずすこと。道、的は神！相手は神！
- あなたの若い日に、**あなたの創造者を覚えよ**。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。伝道者12:1
- 結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。**神を恐れよ**。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。神は、善であれ悪であれ、あらゆる隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからである。12:13-14

7

神を恐れること

- 【主】よあなたがもし不義に目を留められるなら主よだれが御前に立てるでしょう。しかしあなたが赦してくださるゆえにあなたは人に**恐れられます**。詩130:3-4
- あなたこそ私の内臓を造り母の胎の中で私を組み立てられた方です。私は感謝します。**あなたは私に奇しいことをなさせて恐ろしいほどです**。私のたましいはそれをよく知っています。詩139:13

8

神の愛に応える

- **人生の答えは神、神の愛、アイデア！**
- それ(神の愛)に答(応)えること、応えながら生きることが本来の人間らしい人生！
- 歌にすると
 - あなたをたたえ あなたののみ名かけ
 - どんな時-も 感謝するため
 - あなたを愛し そのみもとで拝し
 - 従うため 造られた (よろこびたえよう24)

9

わたしはあなたと一緒にいる

- 私にはできない(できると思ったけど)
- 「**わたしはあなたと一緒にいる**」
- イスラエルに名前をどう伝える？
- (あつてある、**いてる**)
- 「**わたしは一緒にいる**」
- 名前そのものよりもその意味を説明している
- 創世記4:26、12:8、21:33
- イエス様の生涯はインマヌエル。神は一緒にいる！マタイ11:23、28:20
- 80歳のモーセがしかられている。ただいま成長中！
- あと40年の訓練(弟子訓練)

10

わたしはあなたと一緒にいる

- ヨセフもモーセも神に仕えるために救われ=召され=遣わされている。(自分のため、神を使うのではない)
- 自分らしくよりも、神にふさわしくが先！
- 置かれた場所で咲く 成功するよりも、忠実であれ、神に。自分らしくよりも、神の召しにふさわしく生きる。自分中心ではなく、神中心。
- 私たちと一緒におられる神は、私たちが神と一緒
に生きることを求めておられる。
- 神が命、力、知恵の源。主と交わる(いっしょの)者は主のように(いっしょの心)になる。
- 訓練を受けながらいっしょに生きましょう！

11